

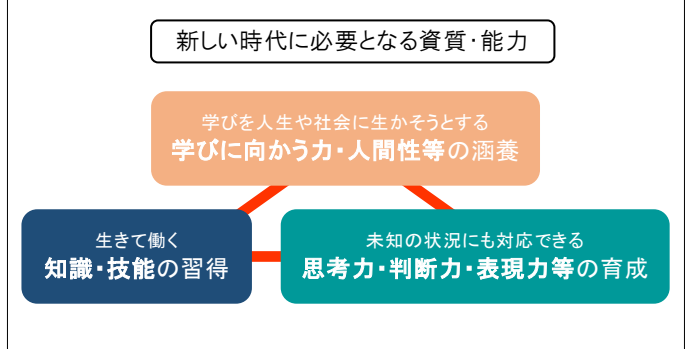


学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、小中一貫教育9年間で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬の得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の教育目標を設定する。

<p>【目指す15歳の姿】</p> <p>知性にあふれ 正しく判断できる人 豊かで 品格のある人 健康で 行動力のある人</p>	<p>【教育目標】</p> <p>なかよく かしこく たくましく</p>
---	---

- 学力向上にかかわる学校経営計画**
- 児童の実態から指導方法の工夫、評価の改善に努め、学習意欲を向上させ、各教科の基礎的、基本的な内容の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
 - 本校と大泉中学校の「計算力に関する実態調査」の結果を活用するとともに、日常の授業における児童の習熟状況を把握し、一人一人の児童にきめ細やかな指導の充実を図る。
 - 各教科の評価規準を活用し、児童一人一人の学習状況を確実に評価する。



- 【各教科の指導の重点】**
- ・体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習を通して、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着、思考力、判断力、表現力等の育成を図る。
 - ・算数科においては、少人数加配教員、学力向上支援講師を活用し、少人数学習集団による指導、ティーム・ティーチングによる指導を行い、習熟度や興味関心に基づくきめ細やかな指導を行う。
 - ・大泉中学校との小中連携において作成した体育科を中心としたカリキュラムに基づき、9年間を見通した学力の向上を図る。
 - ・国語科における記録、要約、説明、論述等の言語活動および各教科等の特質に応じた言語活動の指導の工夫による思考力、判断力、表現力等の育成を図る。

道徳の指導の重点	外国語・外国語活動の指導の重点	総合的な学習の時間の指導の重点	特別活動の指導の重点	生活指導の重点	進路指導の重点
学校教育全体を通じて、それぞれの教育活動の特質に応じて行う道徳教育と、それらを補充、深化、統合する道徳の時間の充実を図り、道徳性を育成する。 各教科、外国語・外国語活動、総合的な学習の時間および特別活動における道徳教育と密接に関連を図りながら、計画的、発展的な指導を行う。	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、聞く力などを育てる指導の充実を図る。 日本語とは異なる外国語の音に触れ、外国語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとしたり、他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的に自分の思いを伝えようとする態度を育成するための指導の充実を図る。	体験的な学習に取り組み、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。 体験活動をしたがり、調べたりしながら、必要な情報を集め、得られた幅広い情報を整理・分析したり判断したりしながら、既習の知識や経験と結び付け、自分の考えや意見、発見したことなどをまとめ、表現する指導の充実を図る。	児童の自主的、自立的な活動を重視し、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育て、生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う指導の充実を図る。 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。	児童一人一人の人格を尊重しながら、規範意識を育むなど社会的資質や行動力を高める指導の充実を図る。 児童の実態を把握し、学校全体で組織的な指導を行うとともに、学校教育相談機能を充実させ個に応じた指導を推進する。	各教科等の指導を通じて、学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会の充実を図る。 学級活動等において、自己の悩みや葛藤、将来の夢などの課題を積極的に取り上げ、考えを深められるようにして、指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携した指導を行う。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程上の工夫	校内における研究や研修	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○学力調査結果の活用 ・学力調査の結果を分析し、本校児童における更に伸ばしたい学力の向上を図る。 ○主要4教科の充実 ・国語科においては「言語活動」の指導および「考える力」の育成、社会科学においては「問題を追究・解決する学習」、算数科においては「問題発見・課題解決」、理科においては「問題解決的学習」等の充実を図る。	○年間を通じた教材研究時間の確保 ・標準授業時数を適正に確保しながら、校内行事や会議の精選を行い、教員の教材研究の時間を設定し、指導方法の向上に努める。 ○朝学習の充実 ・漢字や計算、読書など基礎的・基本的な学習および発展的な学習の充実を図る。	○小中連携における研究 ・理数教科における学習の円滑な接続のためのカリキュラムと指導方法の開発に努める。 ○考え、表現する指導方法の研究 ・理数教科における問題解決的な学習指導および思考力、判断力、表現力等を高めるための指導方法の研究に努める。 ○コミュニケーションスキル 円滑なコミュニケーションを図るための指導方法の研修に努める。	○基礎的・基本的学力の定着 ・評価規準を活用し、指導と評価が一体となった教科指導計画に基づき定着の状況を確認し、一人一人にきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図る。 ○授業における学習状況の把握 ・日常の授業における学習状況を小テスト、机間指導、ノート指導、発表等を通してきめ細やかに把握し、個に応じた指導の充実を図る。	○学校行事および授業公開 ・学校公開、学校行事等、常に学校を開くとともに、アンケートなどから期待や要望を受け止め、授業改善に生かす。 ○学校評価の活用 ・学校評価の結果を分析するとともに学校評価委員会に説明し、学校の自己評価と合わせて教育課程の改善および授業改善に生かす。